ディスクロージャー実務を支援する
PRONEXUS

平成２６年３月２５日

各　位

会 社 名　　株式会社プロネクサス
代表者名　　代表取締役社長　上野剛史
（コード番号　７８９３　東証第一部）
問合せ先　取締役執行役員社長室長 大和田雅博
電話番号　　０３－５７７７－３１４５

英国ＩＲ協会「ＩＲベストプラクティス・ガイドライン 2014」日本語版の発刊について

株式会社プロネクサスは、日本の上場企業と株主・投資家のコミュニケーションの質的向上に貢献する取り組みを進めています。その一環として、英国ＩＲ協会の「ＩＲベストプラクティス・ガイドライン」（以下、「本ガイドライン」）日本語版の作成に参画し、このたび 2014 年版が発刊されましたので、お知らせいたします。

記

１．本ガイドライン日本語版作成の背景と当社の参画目的

株主・投資家向けのアニュアルレポートやウェブサイトは、誰でも入手・アクセスできるＩＲツールです。しかし、これと決まった書式やテンプレートがあるわけではありません。そうした中、英国ＩＲ協会はこれらのＩＲツールなどの「望ましい姿」の指針を定めた本ガイドラインを毎年作成・更新しており、英国を中心とした欧州の多くの国々において活用されてきた実績があります。

プロネクサスは、本ガイドライン日本語版の制作ワーキング・グループである「Project Future Proof」（以下、「ＰＦＰ」）の活動主旨に賛同し、４年前より参画してまいりました。

プロネクサスは本ガイドラインをよりわかりやすい形でお客様に提供することにより、お客様のＩＲ活動の一助となること、本ガイドラインをベースとしたより良いＩＲのご提案をしていくことを参画の目的としています。

２．本ガイドライン日本語版の特長

（１）「ウェブサイト」「アニュアルレポート」「ソーシャルメディア」「ＩＲプレゼンテーション」の指針を提供

本ガイドラインでは、ＩＲ活動の重要な要素である「ウェブサイト」「アニュアルレポート」「ソーシャルメディア」「ＩＲプレゼンテーション」の４分野について指針を提供しています。これらの指針は、オンライン版アニュアルレポートに関する具体的なガイダンスなど、最新の技術・トレンドに対応しています。

（２）日本国内の上場企業の実例に基づいた具体例を明示

ＩＲ担当者の皆様に明確なイメージを持っていただくため、日本国内の上場企業の好事例等をガイドラインと併せて紹介しています。過年度版に加えてより多くの情報を提供するべく、2014 年版では、新たな上場企業の好事例を掲載いたしました。

３．本ガイドライン 2013 年版からの主な変更点

アニュアルレポート・ガイドラインは、2013 年に英国会社法が改正されたことに伴い、ビジネスレビューチェックリストがより詳細になりました。日本語版では、それぞれの項目に好事例を追加しています。

また、ＩＲプレゼンテーション・ガイドラインは、10 の主要方針が示され、よりわかりやすいガイドラインとなりました。

４．本ガイドラインのご提供

プロネクサスは、営業担当を通じ、ご要望のあるお客様を対象に本ガイドラインを無償で提供するほか、ワーキング・グループ「ＰＦＰ」メンバー等によるセミナーの開催を予定しております。

■ワーキング・グループ「ＰＦＰ」のメンバー

埼玉学園大学教授　米山徹幸氏

株式会社ファイブ・シーズ　越智義和氏

株式会社ラッセル・コミュニケーションズ　デビッド・ラッセル氏

株式会社プロネクサス　小澤則夫

■英国ＩＲ協会について

英国ロンドンを拠点とする欧州最大のＩＲ団体。会員は英国・ヨーロッパを中心に約 600。ＩＲに関する提言、ＩＲ担当者向け教育活動、キャリア支援などを行う。アニュアルレポートや企業ウェブサイトを対象に本ガイドラインをベースとした「ＩＲベストプラクティス賞」を年１回開催し、優秀なＩＲ活動を実践する企業を表彰している。

■本ガイドラインに関する問い合わせ先

株式会社プロネクサス　海外ＩＲ事業部　山田・前川

Tel.03-5777-3609

（ご参考）本ガイドラインの表紙および本文




Integrated Reporting（統合報告）

統合報告は、これまで以上に形が明確になってきている。国際統合報告審議会（IIRC）とパイロットプログラムが推進しており、将来、投資家にビジネスに対する全体像と事業内の相関図を提供する、報告書の好事例の基準となるだろう。2013年4月、IIRCは、統合報告フレームワークの素案を発表した。

統合報告の基本的なコンセプトは、短・中・長期にわたる価値の創造と維持である。それを達成するため事業に寄与する要素には、ビジネスモデル、決定的に重要なリソースと長期にわたる持続可能性に依存する事業にあたっての関係者（しばしば資本と言及されるが）を特定することが含まれる。統合報告を達成するためには、統合的思考も求められなければならない。

これらの資本やIIRC、パイロットプログラムに関する詳しい情報については、次のサイトへアクセスすること。
http://www.theiirc.org/

■非制限ハイライト（ベネッセホールディングスの場合）

V. Annual Report - printed design

印刷版アニュアルレポート

Front cover（表紙）

ARの表紙は、事業の強みやメッセージを表現するイメージやフレーズで表現すべきで、このテーマは、ARの文章部分全体を通して、強調にされるべきである。

Imagery（画像）

写真、チャート、概略図など視覚的なものの使用は、キー・メッセージを伝えるための強力な手段であるが、正しいバランスを取ることも重要である。一般的に画像は、ARの内容やキー・メッセージに関連があるべきである。多すぎる画像は、そのドキュメントを複雑にしすぎる、少なすぎると文字ばかりになり、読者を引き込まない。写真は、関連性を説明するためにキャプションをつけるべきである。

グラフや表、チャートは、数字を表現するために可能であれば使うべきで、それらは何を表しているのかを明示すべきである。

■画像（CMOの推移の場合）

Layout（レイアウト）

すべての株主が、ARを詳細に見る時間があるわけではない。情報にアクセスしやすくする箇条書きの適切な使用、短いパラグラフ、文章のハイライト、視覚的な素材、グラフなどを使用すべきである。

ほとんどの株主は、ARを斜め読みするので、読者の関心をキー・メッセージに引きつけるため、重要な情報は標題や文の引用、囲みおよび色づけしたりすべきである。

フォントは読みやすい大きさとし、一文は長過ぎないようして、文章はコラム状にレイアウトすべきである。

A Best Practice Annual Report Guidelines

以　上